3-11　第11分科会「色や形で伝えよう―絵本づくりで―」まとめ

担当　長瀬達也

分科会名	色や形で伝えようー絵本づくりでー
担当者・メンバー	担当者：長瀬達也（美術教育講座） メンバー(17名)：保苅萌美，奥崎亜実，齋藤望穂子，柴田明子，鈴木翔子，坂陽子，山谷紋央，岡田暁，木村景，寺松諒子，藤澤知里，門間美保，渡邊かんな，伊藤麗華，下田展子，中野英梨佳，羽田麻里子
活動の概要	社会や学校では，言葉が重要な位置を占めています。しかし，人間にとっては色や形も，思考や伝達などの重要な道具です。ここでは，自分の伝えたいことや，表現したいことを，言葉を使わないで，色や形だけを使った絵本をつくることで，色や形，画像や映像の力について考えていくことにしました。 具体的な活動としては，まず色や形による初歩的な表現をやってみたり，「はらぺこあおむし」などを創ったエリック・カールの色や形の表現の哲学や方法論を調査したりしました。これらの成果を生かして，色や形だけを使った絵本をつくっていきました。
活動のプロセスやまとめなど	活動を終えて　　メンバー代表：奥崎亜実・鈴木翔子 絵本は，絵と文字を使って物語を伝えることが多いものです。 今回私たちは，あえて言葉を使わずに，色や形だけで表現するという方法をとりました。このことは思いのほか難しく，自分が伝えたいことをうまく表現できなかったり，なかなかテーマが見つからなかったりと，かなり苦戦しました。 しかし，言葉が使えないからこそ，色や形などの造形要素に，あらためて着目するようになりました。初めて使う画材も多く，思い通りにいかずに迷ったりもしましたが，予期せぬ色や形になり，逆にそれが良い効果を出すものになりました。 このようにして，言葉ではなく，色や形でしか表現できないことで，イメージを伝えられるように工夫しました。その結果，様々な表現が生まれ，十人十色の絵本を作ることができました。 言葉がないことで，その絵本のとらえ方は読み手によって異なったものになります。しかし，それが逆に面白く，伝えること，表現することの楽しさを感じることができました。そして，言葉の的確さや効率の良さなども，再認識することができました。
	活動から見えたこと　　担当者：長瀬達也 メンバーの意欲と努力が，色と形だけで，素晴らしい絵本を創り出しました。今の学生たちや，子どもたちは，私たちの世代より，ビジュアル的な能力が高いのではないでしょうか。このような能力，そして意欲を，教育現場の総合的な学習で，前例にとらわれず探究で発揮させていくことが大切に思えます。